

令和6年度 国富町立木脇小学校 学校評価・自己評価書

【学校経営ビジョン】 「目がとどく、声がとどく、心がとどく」教育の実践と教職員の指導力・学校の組織力の向上によって、「自ら学び、豊かな心とたくましい体をもち、自分のよさを発揮しながら、進んで実践する児童の育成」を図る。														
評価項目(指標)			具体的目標		方策・手立て		自己評価			学校の自己評価コメント (○:アンケート結果、△:結果の考察・分析と改善策等)				
							児童	保護者	教師					
進んで学ぶ子を育てる	1	基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得	○ 学習5つのきまりを守っていると答える児童が80%を超える。 ○ 授業がよく分かると答えた児童が80%を超える。 ○ 家庭学習時間(集中して取り組んでいる時間)が、学年の目安時間と上回った児童が80%を超える。	○ 学習5つのきまりを徹底する指導を行う。 ○児童が「わかった」「できた」と言える授業づくりを行う。 ○毎日の学習の振り返りや次の学習への見通しをもてるよう、家庭と連携し、手立てを講じて学習に取り組むことができるようにする。	3.0	2.7	2.5	2.7	2.7	○児童・保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「授業がよくわかりますか」・・・児童94%、保護者77% △学習5つのきまりの徹底を呼びかけ、児童が落ち着いた学習できる環境作りを行ってきた。また、分かる授業を目指し、各学年で計画的に学習指導を行ってきた。個別の学習も児童に自信をもたせるこにつながっているが、理解が不十分な児童への支援のあり方やCRT検査等の諸検査の結果をうけた個別指導など、今後も授業の工夫改善を継続して行う必要がある。 ○家庭学習については、下学年では自立とする学習時間に達している児童の割合は8%、上学期は57%だった。 △日常の指導に加え、6月・2月の家庭学習チェック週間に実態把握を生かし、今後も家庭と連携して、有意義な時間となるようにする。				
	2	学習意欲の向上	○ 児童がICT機器(タブレット等)の使い方を理解し、学習の内容理解を深めるために、自分の考えや意見を伝えることができる児童が80%を超える。	○タブレット端末等、ICTの有効活用等を通して、主体的・対話的で深い学びの授業改善に取り組む。 ○機器の使い方(ルールやマナーも含む)や活用の仕方(発表やドリル等)を学ばせ、それを生かして、自分から考えをまとめたり表現したりする活動の充実を図る。	3.1	2.7	3.0			○児童・保護者アンケートで3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「タブレットやパソコンを使って学習することができますか」・・・児童93.8%、保護者78% △授業において、ICTを活用した学習過程の工夫によって、児童のスキルも向上し、児童が進んでタブレット等を活用しながら話合ったり、発表し合ったりして、学習内容の理解を深めることができている。今後は、タブレットPCを積極的に文房具のごとく活用し、さらに身边にICTを生かして学習進めるスタイルを工夫していく必要がある。				
	3	読書活動の推進	○ 本に親しみ、進んで読書をしようとする児童を育てる。学期合計で、低学年は月25冊、中学生は月18冊、高学年は月10冊以上読む児童が80%を超える。	○読書環境の充実を図り、読書を啓発するポスターやおすすめの本を知らせる掲示したり、委員会活動を中心とした読書bingo等の活動に取り組む。 ○学期1回の多読賞、月一回の「読書の日」への取組の推進を行う。	2.7	2.2	2.3			○児童・保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「自分から進んで本を読んでいますか」・・・児童63.1%、保護者は35.4%と △読書意欲が高まるように、読書貯金や、委員会活動を中心として「読書bingo」等の手立てを講じた。イベントの期間は読書量も増えることから、今後も児童が進んで読書に親しむきっかけ作りを行っていくようにする。また、学年にふさわしい本に親しめるようにしたい。さらに、県立図書館のひなた電子図書サービスを利用し、タブレットPCを活用して、進んで読書をする機会をもせるようにしたい。				
思いやりのある子を育てる	1	規範意識の高揚	○ 学校や家庭、地域が連携を図り、時と場に応じたルールやマナーを守る児童の育成を目指す。(きまりを守る児童100%)	○ 家庭や地域に「生徒指導だより」や「まちコミメール」等で情報を発信するとともに、児童に集会や授業等できまりについて話し、常時指導を行うことで規範意識を高める。	3.4	3.2	2.6	2.8	2.8	○児童・保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「交通ルール・学校のきまりを守っていますか」・・・児童93.5%、保護者95% △校内における廊下歩行や無言の場、校外における横断歩道の渡り方等についての指導をさらに充実させる必要がある。また、当たり前のことが当たり前にできるような習慣化(スリッパを並べる、名札の着用、時間を守る等)をさらに図っていく必要がある。				
	2	あいさつ・会釈の啓発	○ 気持ちのよいあいさつや会釈をすることができる児童が90%を超える。	○木脇小・中及び保護者、地域住民との連携を図り、あいさつ運動と会釈の指導を推進するとともに、実践できた児童への賞賛に努める。	3.3	2.6	2.6			○児童・保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「自分から進んであいさつ、会釈をしていますか」・・・児童95%、保護者67% △計画集会委員会を中心とした各学級の輪番による「あいさつ運動」を実施し、児童が主体的にあいさつに取り組めるようにしたい。 △「木脇地区あいさつ大作戦」「中あいさつ運動」を継続して取り組むとともに、できている児童への賞賛等を通して、児童のあいさつに対する意識をさらに高め、地域でのあいさつに広げたい。				
	3	思いやり(感謝や貢献の心)	○ 学校や友達のために、自ら進んで行動できる児童の割合が70%を超える。	○ 児童会活動や委員会活動を充実させ、児童が主体となる活動の計画・運営・実施をとおして、自ら考えて進んで行動する態度を育成するとともに、思いやりの心を育む。	3.3	2.5	2.7			○児童・保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「係や当番活動に進んで取り組んでいますか」・・・児童94.7%、保護者88.4% △困っている友達に声をかけたり、手伝ったりなど親切な行動が見られることもあるが、言葉遣いや名前の呼び方については課題が残る。その場での指導を確実に行うとともに、道徳教育並びに人権教育の充実にさらに努めていく。				
たくましい子を育てる	1	体力や運動能力の向上	○ 休み時間、体育の時間に、進んで体を動かしている児童が70%を超える。	○ 週2回以上の外遊びを啓発する。 ○ 握力ボール、大縄の教室配付を行なう。 ○ 体力テスト前の目標設定や実施後の振り返りを行い、次年度へつなげる。	3.3	3.0	3.1	3.2	3.2	○児童・保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「楽しく運動したり外で遊びたりしていますか」・・・児童92%、保護者74% △児童は進んで体育に参加しているが、休み時間の過ごし方、日常の生活習慣では運動する児童が少ないので、体力向上にはつながっていない。肥満傾向が高く、メディアとの付き合い方が影響しているのかもしれない。				
	2	健康的な生活習慣の確立(新型コロナウイルス感染症予防)	○ 手洗い、うがい、歯磨きを確實に行い、けが・病気の予防や立腰に努める児童が70%を超える。	○ 手洗い、うがい、消毒、教室の換気等の感染症予防や立腰を啓発する。 ○ メディアコントロールを含む基本的な生活習慣についての常時指導を行う。	3.3	3.0	2.8			○児童・保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「手洗い、うがい、食後のみがき等を行って感染予防・病気予防に努めていますか」・・・児童94%、保護者82% △げかによる保健室来室は少くなっているが、病気での来室は昨年度より増えている。特に、月曜日の来室、欠席が多い。生活習慣実態調査から、平日と休日の生活リズム(起きる時刻、寝る時刻、メディア使用時間)が違うことがわかった。休日の過ごし方について家庭との連携が必要。				
	3	食のマナーの徹底	○ 食事のマナーを考えながら、食事ができる児童が70%を超える。	○ 給食のマナーチェックシートを使って、片付けや好き嫌いのないバランスのとれた食生活の習慣を啓発する。	3.5	2.8	2.7			○児童・保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「食事のマナーを守って、食べていますか」・・・児童98%、保護者69% △食のマナーについては児童と教師・保護者の間で評価のずれが大きい。また、保護者のコメントから学校ではできても、家庭では活かされていない様子がうかがわれる。食時マナー・バランスの指導が家庭でも活かされるように指導していく必要がある。				
開かれた学校をつくる	1	家庭や地域への情報の積極的な発信と共有	○ まちコミメール登録数を100%にし、常に情報発信を行い、共有できる体制づくりをする。	○ 学校通信や学級通信等を発行し、児童の教育活動の状況を知らせ、情報の共有化を図る。 ○ 学校ホームページやまちコミメール等を効果的に活用し、児童の活動の状況や緊急を要する連絡がすぐにできるようにする。	2.9	3.0	3.0	2.9	2.9	○保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「学校は、お知らせや文書、通信等で、取組や児童の様子を伝えていますか」・・・87.9% △肯定的な評価が9割近くあり、概ね情報発信は効果的に行なうことができていると言える。特に、管理職の先生方を中心に行ってもらっているホームページ更新は効果的であると考える。また、毎日学級通信を発行している学級もあるなど、職員も情報発信に積極的に取り組んでいると言える。しかし、昨年度と比べると、0.5ポイントマイナスとなっており、情報発信の在り方を改善していく必要もある。例は、大きな行事だけではなく、日常的な出来事をホームページに随時アップできるよう、ホームページ更新についての職員研修を行う等をしていくたい。				
	2	コミュニティースクールとしての取組を核とした各種連携・協働の推進	○ 学校運営協議会を中心として、地域と学校が目標を共有し、協働による活動を推進する。 ○ コミュニティースクールと地域学校協働活動を一体的に推進し、地域人材の積極的な活用を図る。 ○ キャリア教育に关心をもたせ、自分の将来について考えさせることができる機会をつくる。	○ 学びと体験の共有を目指した校外学習等を企画・運営し、地域の方々の人材活用を積極的に行なう。活用した人材に関しては、記録を残し、今後の財産として共有し、活用できるようにする。 ○ キャリアパスポートの活用等をとおして、今後の自分の生き方について考えることができることのできる機会をつくる。 ○ 学校運営協議会を中心にして、地域の方々と情報を共有し、木脇地区の子どもたちの健全育成を図る。	2.9	3.1	3.1			○保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「学校は地域や保護者の方々と一緒に協力して活動を進めていますか」・・・83%				
	3	関係機関との連携	○ 運携型小中一貫教育を推進する。 ○ 幼保小中連携や青少年育成協議会、社会福祉協議会等の連携・協働を行う。 ○ 町福祉保健委員、教育相談員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー等との連携を行う。	○ 小中学校教員の共通理解をもとに、9年間をとおして児童を育てる。 ○ 参観日やオープンスクール、PTA行事等の保護者の参加率を高め、児童と地域の方々の交流を図る。 ○ スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、関係機関等と連携し、気になる児童に対して積極的にアプローチを行い、児童の健全育成を図る。	2.5	3.1	3.1			○保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「学校は、中学校や関係機関と一緒に協力して活動を進めていますか」・・・74.3% △本年度は、昨年度までの小中一貫運動や幼保連携の話し合い等に加え、中学校での合唱参観や、保健委員児童との交流などの活動を行なうことができた。また、特別支援教育コーディネーターが中心となり、支援が必要な児童について関係機関との連携を行なってきた。それらが評価され、昨年度よりも6.4ポイントマイナスにつながったと考える。しかし、肯定的な評価が7割程度であることや、「分からない」という回答が16.4%あることから、取組への理解が広まっていないことを感じた。今後もさらに関係機関との連携を深めていくとともに情報発信を積極的に行っていきたい。				
特別支援教育	1	教育的ニーズに応じた指導や支援の充実	○ 学期に1回のアンケートで、「学校が楽しい。」「どちらかといえば楽しい。」と答える児童が80%を超える。	○ 人権の時間に相互理解ができるような活動を行い、児童相互の交流をお深める。 ○ 月1回のにこにこアンケートと学期1回の心のアンケートを実施し、その結果を基に共通理解を図り、指導支援に生かす。 ○ 個別の教育支援計画や指導計画に基づいた決め細かな支援を行う。	2.6	3.2	3.2	2.9	2.9	○児童アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「学校は、楽しいですか」・・・94.6% ○保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「学校は、常に児童理解に努め、児童の家庭に応じた指導や支援を行なっていますか」・・・78.2%				
	2	校内の支援体制や環境の充実	○ 学期に1回のアンケートで、「学習のことで困っていることがありますか。」で、はいと答える児童が20%を下回る。	○ 教師間の連携を図り、学校全体で実態を把握する。 ○ 心のアンケートやCRT分析を基に、児童の学習に関する事態把握に努める。 ○ 共通理解のもと、校内支援体制づくりや環境の充実に努める。	2.3	3.3	3.3			○保護者アンケートで、3または4を選んだ肯定的な評価の合計 「学校は、教師間で連携をとおして指導にあたったり、支援ができる体制を作っていますか。」・・・66.7% △保護者としては、昨年度よりも連携がとれていると言っている割合が上がっている。担任との連携を高める工夫をしていくたい。登校渋りや不登校の児童が増えてきているので、学校、保護者、関係機関を含めた支援体制が作れるようこれからも努めていく。				